

市場動向

■USD/TWD



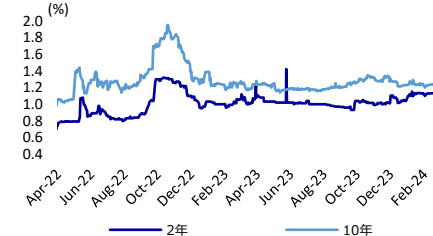
■JPY/TWD



■USD/CNH



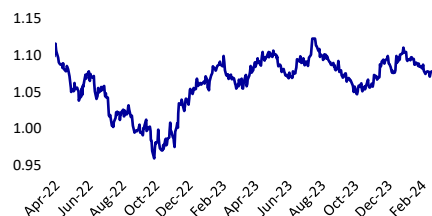
■台湾国債利回り



■USD/JPY



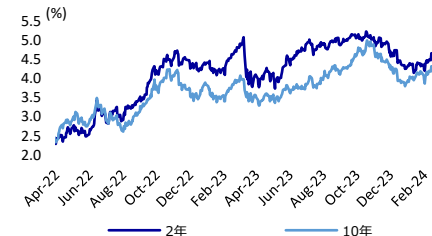
■EUR/USD



■台湾加権指数



■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは上昇。旧正月明け初日の木曜日2/15は31.350でオープン後、休暇期間中に米国株が大幅に上昇したことを受け、台湾加権指数が史上高値を更新したものの、海外投資のドル買い注文が多く、ドル/台湾ドルは31.40台へ載せた。2/16は、前日の米1月小売売上高、米1月鉱工業生産も予想より弱い結果となるものの、影響は限定的。台湾株式市場が史上高値圏で推移となったため、一時31.330までドル/台湾ドルが下落した。2/17は、振り替え営業日、31.40ちようどを挟んで取引終結。最終的には前週比ほぼ同様の31.370で先週の取引を終了。週間(2/15～16)の外国人投資家の株式買い越し額は599.37億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のドル/円は上昇。週初2/12は149.21でオープン後、日本休日の中、じり安。海外時間は、米金利低下を受け続落してスタートも、ボウマンFRB理事のタカ派な発言を受けた米金利上昇を背景に、149円台前半に反転上昇した。2/13、日本株上昇を横目に、149円台半ばでじり高。海外時間は、米1月CPIの強い結果を受け、米金利急騰につれる格好で、昨年11/17以来となる150円台に乗せた。その後、週高値となる150.88円まで上伸した。2/14、神田財務官による円安けん制発言などを受け、150円台半ばでじり安。海外時間は、FRB高官によるタカ・ハト入り混じる発言が意識され、150円台半ばでレンジ推移した。2/15、海外時間は米1月小売売上高の弱い結果に合わせ149円台半ばに急落する場面もあったが、米金利が上昇に転じたことを受け、150円台前半に値を戻した。2/16、米1月の米卸売物価指数（PPI）が市場予想以上に上昇し、ドル/円は一時150.65まで上昇したが、米国では3連休の週末を控えて長期金利が次第に上げ幅を縮めたため、150円台前半へ戻した。最終的には前週比1.4%ドル高円安の150.23で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD 予想レンジ：31.280-31.480

今週は31.40近辺推移を見込む。米早期利下げ観測が後退し、米長期金利が上昇したものの、堅調な米国株式市場の値動きにつられて台湾株価が底堅く推移する場合、台湾ドル需要も高まることから売り買い交錯となりやすいであろう。

■USD/JPY 予想レンジ：148.00-151.50

今週は底堅い展開を予想する。先週米1月CPIの発表後、5月FOMCの利下げ織り込みは3割以下に低下しており、FRB高官からもタカ派発言が目立っている。引き続きドル買いの地合いは変わらないが、150円台を超えたタイミングで日本高官の発言には注意しておきたい。

今週の予定

2/19 (MON)	
2/20 (TUE)	
2/21 (WED)	日本1月貿易収支、米FOMC議事要旨（1月会合分）
2/22 (THU)	米2月製造業・非製造業PMI（速報）、米1月中古住宅販売件数
2/23 (FRI)	

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。